

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	北部地域療育センター	評価対象年度	令和3年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人 同愛会 ・代表者名 理事長 高山 和彦 ・住所 横浜市保土ヶ谷区上菅田町金草沢1749	評価者	障害者施設指導課長
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部障害者施設指導課

2. 事業実績

利用実績	通園定員 60名 診療所利用児数 リハビリ・検査実施数	通園契約児 163名(137名) 年間延べ 5,465名(5,257名) 年間延べ 5,435名(4,406名)	()内は前年度実績
収支実績	<p>【収入】</p> 給付費収入 119,609千円 医療事業収入 35,076千円 指定管理委託料 268,429千円 積立金取崩収入 8,000千円 その他 6,661千円 合計 437,775千円 収支差額 341千円	<p>【支出】</p> 人件費 340,656千円 事務費 60,887千円 事業費 17,733千円 その他 0千円 繰入金 17,126千円 固定資産 1,032千円 合計 437,434千円	※千円未満切り上げのため合計に微差あり
サービス向上の取組	・第1・第3土曜日に「ほくほく広場」を開催し、施設を誰でも使える遊び場として提供した。保護者の相談、インテークを前にした見学の場としても活用し、子育て支援の場となるよう取り組んだ。 ・重大な事故が発生しないようヒヤリハットでの報告を常に周知し、各職員の意識付けを行った。 ・令和2年度から実施する多職種職員の連携による通園クラス運営やケースカンファレンスの継続的な実施を通じて、各職種の専門性を相互理解が進むとともに、職員間での連携強化につながったことから、結果として利用者へのサービス向上へとつながった。		

3. 評価 (評価段階:5~1,標準:3,加点割合:5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%)

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	3	6
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
(評価の理由) ・コロナ禍であったため、感染拡大防止の観点から、相談者のセンター利用を一部制限したり調整する時期もあったが、個別支援のみならず、電話連絡、園庭開放、運動ホール開放等の様々な機会を通して相談者の状況把握を積極的に行うとともに、保護者を孤立させないよう適宜働きかけを行った。また例年開催している行事等については、利用児の体験機会を保障するため形式を変え実施するなど、できるだけ継続の可能性を模索しながら、運営を行った。 ・多職種による通園クラス運営やケースカンファレンスを定期的を実施し、情報共有や課題検討を一緒に行うことで、多角的な視点を共有し、より効果的な支援を検討することで、積極的な利用者支援を展開した。 ・地域の関係機関への訪問支援などを実施し、地域の相談ニーズに対応することで、関係機関との連携促進を図った。					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	3	3
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3	
	事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
(評価の理由) ・前年度に引き続き法人内部監査室による監査や外部公認会計士による監査を受けることで、厳格な経理業務の運用を行った。 ・財政援助団体会計監査において、積立金について指摘を受けたものの、以後は取り扱いに関する定めに基づき計画的な取り崩しを行っている。					
サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	3	3	
	利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか				
(評価の理由) ・新型コロナウイルスの影響で一部利用制限や利用調整を行っていた期間についても、感染対策の徹底を図りつつ、可能な範囲で園庭、運動ホール等を開放して相談者を受け入れることで、相談者の状況把握を行うとともに、相談者の不安に寄り添うような施設運営に努めた。 ・支援会議を通じて、各センター利用児童に対する必要な支援を組織的に判断・評価するとともに、それに基づく十分かつ適切な療育の提供を行った。 ・地域の幼稚園や保育園に、地域療育センターの担当者を明確にすることで、各園との連携が深まり、円滑な情報共有・スムーズな相談支援を行った。 ・近隣のクリニックや診療所との協議や支援を通じて、連携強化を図ることで、地域包括ケアシステムの構築に寄与した。					

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	4	4
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	3	3
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3
(評価の理由) <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であったため、例年職員を派遣する外部研修については中止となるものが多かったが、新たに外部の学識経験者を招いて支援方法の助言を受ける機会を新たに作ったり、内部研修を充実させることにより、職員の資質向上の場の確保を行った。 ・防災委員会を設置し、災害用備蓄の定期的な確認や月1回の頻度で防災訓練を実施するなど、センター全体での防災意識の醸成を図った。 ・外壁の大規模改修工事が行われたため、施設設備の利用制限を行う時期もあったが、関係機関と連絡を密にとり、安全な業務運営が行えるよう適切な対応を図るとともに、センター外に代替の駐車場の確保するなど、相談者の不利益が生じないよう対応を行った。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
	(評価の理由) <ul style="list-style-type: none"> ・仕様に準じて定期的な保守点検を実施し、不具合等があれば早期に所管課へ連絡を行い、適切な保全対応を行っている。 ・築30年を超え老朽化した施設の保全や状態確認を行い、適宜メンテナンスに努めている。 				

4. その他加点

分類	項目	着眼点			評価点
その他加点	市の政策課題への取組	第三者へ一部の業務委託を行う際の市内中小企業者の受注機会の確保・拡大や地域包括ケアシステムの構築に向けた取組への協力、障害者の法定雇用率を越える雇用などを行っているか			0
	(評価の理由)				

5. 総合評価

評価点合計	66	評価ランク	C
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A~E,標準::C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

・地域の中核機関として、地域包括ケアシステムを意識した地域全体を視野に入れての取り組みや地域に貢献する活動が行われた。
・外来部門・通園部門の業務交流や事例検討等を継続的に実施することで、多職種連携の強化及び業務を通じた人材育成を積極的に行い、適切なアセスメントや効果的な支援の実施につなげている。

7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き職員の適切な労働環境および利用児童への良質なサービスの提供の両立に努めること。